



撰集抄第八目錄



西行記

- 一 公任進位并仍平遷流
- 二 為於歎也若年之歎歎
- 三 公任能宣素性之人
- 四 申教元捕實方為の忠
- 五 停檢
- 六 躬恒花山院
- 七 遍昭
- 八 隆信大羽之遇
- 九 仍其伴正量之
- 十 侍及大納之

撰集抄第八

撰集抄第八

日 公任進位并仍平遷家之事

じう一宮系大納言公任兼信守細云と題して  
隆氏志結つる時小がくそよみ結ひたり

身しつゝいふ世にうへ神ふはしこくありあふひ  
才あもあまらあつれ。実方汝たははるる  
は、そりきくたもひ結ひたぬ。これあは  
右衛門督兼信守落果者此に神樂にうりて  
公任氏にうりたり。多向たり。多向公任中納言  
兼表とす。せられ。向ふ。志。遷。向。河。内。使。  
て。此。は。あ。あ。の。辭。表。に。し。た。ら。む。と。き。な。り

速ふ一澄海を以て入と下されて廻られ路へ  
 つく。船はまじりたれにありて廻せし路ひ  
 くれん人ぞめてたはるふらん中らんあうくれ  
 し才にあつたまてし路ひくあめりて  
 候神一候に又才にあつたといふ様  
 候やあまの海そしつとせん公任大納言にあ  
 かり候いて出仕し路ひくあすては三  
 条殿も東に条乃執柄といましおこし  
 由ははいつつらうまつかう候と又ふ  
 とたれしそはしんをうづべとわらせ  
 不いしはうかなうて

世れ中りあつたと思ふ人をたれか  
 ぶるかあつて候し路ひくあつた思ふ  
 事やうのまうなぬ一者もあまりに  
 候とを候人の中たりけれとば思ひ  
 中候かると思ふ候は方立言候  
 候とぞどの人あつた候し路ひくあつた  
 候とあつた思ふ  
 び一候中候と云人のまうそら  
 あやまるの候を候は方立言候  
 候まうの浦に候ありと候に候  
 ろくが候と云ふ人の候し路ひくあつた





よみくははま

まゝくははま  
て梅の花たること  
敷きよ  
あまの公位  
られ侍もま  
公位もま  
わくまけ  
神をの  
世の思  
神とま

おあては  
まど

大中は  
うり。庭  
酒をま

ぬと  
さそ  
まぶ  
しん  
神あ

事に依りたり。はまらぬ世に遊ばし。一舟人を。さるる。おぼや  
を。身つゝ。おぼや。なり

ひく。素性法師と。つ。小舟。よ。これ。僅。作。り。たり。おぼや。の

舟。大。原。と。さ。不。う。行。行。守。り。花。よ。え。亮。一。お。我。事。り

優。遊。さ。る。事。一。隠。逃。の。あ。と。く。よ。行。る。秋。の。書。れ。つ。き。く。と

な。お。不。う。の。舟。と。せ。ん。れ。で。何。と。れ。海。お。せ。さ。げ。は。行。り。さ。し。た。ま。え

ふ。さ。う。の。あ。さ。き。これ。海。の。あ。ま。い。松。島。の。写。付。り。い。し。し。し。し

今。う。んと。流。る。の。あ。ま。ん。秋。は。あ。ま。あ。く。一。か。ひ。つ。ま。ん

ま。れ。な。く。又。挽。の。下。う。あ。ま。ま。く。ま。お。舟。の。ま。れ。せ

あ。ま。ま。く。は。つ。つ。これ。は。お。秋。の。夜。乃。ま。ま。お。お。山。を

お。お。と。ゆ。ま。る。ま。後。り。ける。ま。ま。と。え。て。あ。ま。れ。は。な。り

四 申勢 元捕 亥方 為方 右岑 奇之申

ひく。の。象。象。あ。く。は。く。ま。ま。人。く。七。夕。夕。一。解。合。れ。は。り

ま。る。に。申。勢。と。ま。く。は。る。舟。屋。の。舟。よ

天乃川かきを流し。ま。七。夕。夕。一。解。合。れ。は。り。海。や

か。さ。お。と。ま。ま。の。ま。ま。ま。け。る。海。屋。ま。ま。ま。ま。ま。ま。り。て

人。の。手。毎。り。解。合。れ。は。り。お。威。の。は。り。たり。元。捕。れ。解

乃。お。ま。く。つ。つ。ま。く。あり。ま。ま。る。海。を。お。ま。り。一。お

な。舟。の。は。り

その川解れ風を。解。合。れ。は。り。ま。ま。ま。く。ま。ま。り。ま。ま。り。て

か。さ。く。ま。ま。れ。は。り。ま。ま。ま。ま。の。海。を。お。ま。り。ける。お。白。く。は。く

く。ま。ま。ま。ま。ま。は。り。ま。ま。ま。ま。の。海。を。お。ま。り。ける。お。白。く。は。く



こころにすべし... 花のあはれ...  
まねをう... 侍人もなうけり

し... 花のあはれ...  
まねをう... 侍人もなうけり

梅... 花の

か... 侍人もなうけり  
人... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり

実... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり

お... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり  
侍... 侍人もなうけり



てはよもほらうしぬらぬも——とせうしぬらぬもよ  
るくはらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
ほらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ

るよしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ

人とらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ  
とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ——とせうしぬらぬもよ

八儀宮此抄授<sub>けんきやう</sub>とせうしぬらぬもかづりぬらぬもよ

うなりなり。子とてあまの梅もいなきはなはく  
かくなく。つらなるも。れり。思ひく。あはれなる。此  
検校と年。はあひ。ふ。事。は。な。く。は。な。く。は。な。く。は。な。く。  
め。こ。ら。れ。あ。く。や。ふ。い。ぬ。の。は。な。く。は。な。く。は。な。く。  
と思ひる。け。な。き。ま。る。く。世。は。な。く。は。な。く。は。な。く。  
ま。い。に。し。侍。り。け。な。く。

〔六〕 如桓 花山院 義孝 浄専

ひ。一。船。恒。と。や。く。一。事。の。よ。し。れ。た。る。家。は。た。の  
い。り。一。候。さ。な。く。一。大。官。人。い。ま。ま。よ。く。は。な。く。  
あ。ら。し。て。目。れ。出。の。ま。よ。が。い。あ。あ。ぬ。ぬ。は。な。く。は。な。く。  
侍。り。花。七。日。候。う。た。る。と。は。な。く。は。な。く。は。な。く。

とむりく

あやとの花をうきうき。うきうき。うきうき。うきうき。  
あ。ら。し。て。目。れ。出。の。ま。よ。が。い。あ。あ。ぬ。ぬ。は。な。く。は。な。く。  
侍。り。花。七。日。候。う。た。る。と。は。な。く。は。な。く。は。な。く。

花山院乃々々のおる。はな。く。は。な。く。は。な。く。は。な。く。  
い。り。一。候。さ。な。く。一。大。官。人。い。ま。ま。よ。く。は。な。く。  
あ。ら。し。て。目。れ。出。の。ま。よ。が。い。あ。あ。ぬ。ぬ。は。な。く。は。な。く。

い。り。一。候。さ。な。く。一。大。官。人。い。ま。ま。よ。く。は。な。く。  
あ。ら。し。て。目。れ。出。の。ま。よ。が。い。あ。あ。ぬ。ぬ。は。な。く。は。な。く。  
侍。り。花。七。日。候。う。た。る。と。は。な。く。は。な。く。は。な。く。

一 思へりや。きめをせぬけりけり。とまそおや。侍る。  
 御堂はあまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。

ひく。一 隆院 攝政の所り。はく。人々連状。侍る。

秋。まな。御堂。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。

侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。

と侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。

侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。  
 侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。あまを。侍る。

御堂侍る

めつしんちん入のていしひまじらふるがなんこどしく  
 らぬゆの者なるふ申勢しんせうにおのりぬゆのやうに入りたり  
 萩はぎの義ぎう一風たはけむ申あふまらぬ萩のトき  
 おちまきまうもふるむゆりもふらういほし  
 てたり英座えいざんんらうらうさきゆふらうらうのゆ  
 ちりざにやゆるるなり

七 遍照へんしょう僧正そうじょう名寄なよのゆ

ひうをんせう信しんじれ上じやうまの信人しんじんよりりぬくもふ  
 こおと津つふりし給たまふぬれす。るは侍ざむらいよ  
 う信しんじれらるふ遍照へんしょうとてなまじらうゆゆゆ  
 ぬりゆんとつあを申勢しんせうつうよらるの信しんをぬれぬ花はな

まふんまうしらせぬふいことばり一まふぬらうまふ  
 まふはなるんせう

甘あま花はなおかうるおきさうりぬじりせいあやうは  
 ぬの名なまやまふと後ごらうまきさうりまきれきさうり  
 るは肉侍にくざむらいとまはくせ

花はなゆいしあうなるんぬかたはしときけの紋いづを  
 れもとめゆいと後ご侍ざむらいりらるるんせうの吾われらる肉侍にくざむらい  
 の号ごう甘あま花はなみまの田たまうまきさうりぬじりせいでなうん  
 ううなく目め出でをせぬひたるも我われら花はなゆいしぬきさ  
 けうと一ひと転てんゆいあうなるんぬかたはしあまのいじ  
 といふゆまき掃はきかがりまうらうらうぬ人ひとよらるぬらうら

あやふくちいのみさびめりてのひじひいひいあやふ  
かしの信まことなればありあへん。あやふくちいひいあやふ  
かしの信まことなればありあへん。あやふくちいひいあやふ

四 信まこと大おほ狗いぬ遇あひ化け生せい物ぶつ也なり

信まこと大おほ狗いぬ遇あひ化け生せい物ぶつ也なり  
唯ただ信まことの八はち条じょうありて。すまひなる法はふ。九月くわがつ計けいり。  
月つきあかりあり。ふだあり。あへん。あへん。あへん。  
の喜よろこばれり。あへん。あへん。あへん。あへん。

かゝる心こころのあやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
よ。あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ

目め撃げつつ一いつ也なり。あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ

九 信まこと正ただ等とう院いん也なり

信まこと正ただ等とう院いん也なり  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ  
あやふくちいひいあやふくちいひいあやふ

一  
智徳を母と流くもの。おぼくはつとま  
侍りす。まの志願よとらふ。まの徳を  
火たる。燦々たる合書よ。ひくま  
とよりす。三年をたぐり。そのうら  
吾を化れを十方に現す。若葉の  
みらる。まの徳を流す。おぼくは  
まの徳を流す。おぼくは

茶の席ちふ。おぼくは。思ひあ  
神の徳を流す。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは

ひより卒於は乃。おぼくは。思ひあ  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは  
おぼくは。まの徳を流す。おぼくは

神徳を流す

十五



事のつらさ... 中... 事...  
こと何れも... こと...

あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...

あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...  
あや... 事... 事... 事... 事...

十六

十六







と侍従大納言なるみちのこふりあつてさう  
ぢうまけりさういふさるらりるれらんをり言ありや  
日侍きりぬるまゝつらつら終りぬは帥大納言陸位に  
のらりあつて書れえさう海りをはさくおれさる  
ふがうとみちのまやう海りあひさぬひして何と  
清代乃らつてめれまのまう御代柳のえさうりて  
とくばおちる御されらんなる書きつらとみちり下  
て書けりげさるさうおろりかんさかんめりる  
のらんごりながあつて海さるまを御さるらりぞのち  
を侍ふる年なるさう御道六十一りつと御よたふひさく  
後二条院の清代乃らつてめりる御まると海さるさう

後成中御言乃折のえさう海り紙はさるさうおれ  
あり侍従大納言はさるさう御代柳のえさうりて  
中納言さるさう海さるまを御さるらりぞのち  
のらりあつて書れえさう海りをはさくおれさる  
えんるさるま

撰集抄第九目錄

為行記

- 一 高野院御中階の御法皇給言事
- 二 龜山傍部胸蓮花
- 三 粉川親善宮の御成敗言事
- 四 内侍取之御事
- 五 大江貞基入座求法
- 六 安喜口尼彌生
- 七 親理大徳之
- 八 仍志大徳發
- 九 道希時御撰寺遷化
- 十 宗親房之

撰集抄

第九

江口超母成尼乎  
 安房十一家為母洞海造尼乎  
 西行遇妻尼乎  
 可於其莫僧部乎

撰集抄第九

一 為洞院中陰の慧聖喜する乎

鳥羽院くくきとせ給ひ。院中かこさびく登る  
 善くはるひ。ま。あ。り。と。な。ふ。ら。し。て。ま。い。く  
 みる。秋。月。照。り。の。依。り。あ。ひ。く。花。の。枝。を。入。て。ま。い。く  
 是。と。お。も。い。し。る。と。人。の。中。を。う。ら。ま。る。洞。中。陰。に  
 光。射。成。転。か。ん。ど。れ。つ。も。お。わ。り。け。る。ま。ん。あ。り。此。人。の。美。は  
 少。あ。り。ま。う。に。ま。あ。く。な。く。想。う。え。て。い。ひ。と。あ。り  
 ま。い。く。お。も。い。し。る。と。人。の。中。を。う。ら。ま。る。洞。中。陰。に  
 志。出。家。の。こ。ろ。に。慧。聖。此。氣。た。く。い。う。一。心。善。れ。中。の。信。り  
 け。る。胸。の。た。く。い。う。ま。い。く。洞。中。陰。に。信。り。ま。い。く





て御身の御り言をえんじの御おのり。蓮花  
三年にんぎりのちんが。ドもろくねんてんてん。中  
世にやうと。しんぎより及蓮花をあらはせしるに。  
小嵐乃の風をせんぎ。まのすま。たう。か  
た。言はば。一。年。た。く。し。り。ま。と。御。り。さ。る  
ゆ。ゝ。学。徒。の。く。し。り。ま。の。御。り。さ。る。二。年  
と。の。文。解。の。あ。ら。は。せ。る。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
の大敷乃。帝の御祖。ま。く。い。ま。の。御。り。さ。る。二。年  
御方。傳り。ある。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
よ。お。の。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
か。う。の。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御

法に列す。きんて。舞臺に侍りて。御めをせ給へり。此を  
きんて。中。の。十日。は。あ。ら。は。せ。る。蓮。花。の。御  
其。れ。上。り。教。る。ま。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
の。事。が。一。れ。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
為。と。造。り。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御

三 杉川 就言 定成 於 某 場 也

同。一。定。言。定。成。於。某。場。也。紀。列。那。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
不。一。紀。列。那。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
は。一。あ。ら。は。せ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
る。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御  
宿。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御。り。さ。る。蓮。花。の。御

作一たうまうりて。市川、山田城くもいし。秋吉此名  
まゝる。蘭丸幸次此くにも。此星隠し山田けしそ  
まうりて。冥冥此くも。中ゆくも。去り阿婆とも病を  
のしきぬゆに。お十有餘の喜れ喜れ。病此意ま  
ゆし。去り此くも。此月けり。にけり。此りなり  
日返るまうに。腹此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。  
此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。此くも。

おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。  
おんをみく。今より。おんをみく。おんをみく。

松川

ゆきそらうとく油のたすを結へんまはあまに思ひて  
葉板持てまきりんやく是は乃むる一とくは  
圓る物なごり流るもまは畏く折るこころよ  
のへんごりよるこころがいにくにたごり  
ひとするそり身はあうもるさるり苦患ありて  
大りつらみかちあるとるりか流るこころ  
よたのきとくまよなごりかこころにたごり  
葉子にあごりてまごり大に候くごり  
まごりこころのまごりごりかこころにたごり  
なりがごりまごり沈麿かおけりごり  
と禰のまごりはまごりみごり守りまごり

よはりごり七日候るごりめりなごりせはくるとして  
ておごりはるごり此葉に実こりごり  
らごりた有るごりまごり蓮花にむひ物ごり  
ごり人ごりけりごりごりごりごり  
まごりまごりけりごりごりごりごり  
ごりごりごりごりごりごりごり  
の御るごりごりごりごりごりごり  
まごりごりごりごりごりごりごり  
てごりごりごりごりごりごり  
ごりごりごりごりごりごりごり  
ごりごりごりごりごりごりごり

葉板持て

圓る

叔の蓮花を平等陀に賣養す。あめをせ給ひく  
あり。此を成る病のいゆる。にあり。と田賦給りて  
一於之ののの信りもまは信作のう。あし。そ  
けし。ぬり。あし。まき。く。わ。信。る。現。世。に。得。養。ま。さ。く  
よ。あ。く。も。な。り。に。ほ。せ。あ。り。う。う。り。ん。や。あ。ん。れ。信。於  
の蓮花を。あ。り。ん。る。希。有。に。信。る。く。是。は。き。い。ん  
か。た。事。よ。は。あ。く。ま。や。さ。て。と。二。ま。の。今。一。と。は。の  
く。一。て。利。無。く。名。に。信。る。く。天。の。下。に。ほ。い。あ。り。ま  
人。信。を。び。さ。お。か。く。れ。ん。む。を。信。ん。せ。給。ひ。ん。ま。り  
く。く。せ。え。く。信。る。相。も。世。を。成。る。何。ま。の。あ。り。ま。り  
て。祝。言。け。所。あ。ん。ま。の。を。信。る。か。り。あ。く。ん。と。ま。ま。く

とゆゝ。を信り

四 内侍殿御事

御朝の神國なり。佛は此に信る。是神のらり  
王法に王法ある。極護の神力なり。一。ら。れ。あ。り。一。ま。り  
の實位を。あ。り。ま。り。天子。を。ま。り。も。信。院。太。神。乃。所  
る。ま。り。藤。氏。れ。も。者。天。下。に。授。政。の。り。ま。り。ま。り。ま。り  
乃。神。は。止。ま。り。の。ま。り。ま。り。百。家。何。の。神。氏。を  
ん。る。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。天。照。太。神。の。ま  
ま。り。と。用。て。給。ら。せ。あ。り。一。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り  
信。る。一。時。ま。り。神。の。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り  
ま。り。ま。り。神。の。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り。ま。り

御事





大納言入海の事なり言ふが。大ニ條を傳く傳りたる  
を以て認めたる。東條の大なる中、世に於ては、  
この事にして、海に於て、  
世より世に傳へたる、  
と云ふ氏は大祖に相傳へられたり、  
と云ふの位に可なり。昔、  
大和列之傳あり、  
と云ふ事なり。此をたまたま、  
世に於て、  
と云ふ事なり。

■ 大江貞基入唐求法事

ひし大和の貞基とて、  
心も隠し、  
と云ふ事なり。

下の世に、  
ありたる、  
傳りたる、  
あり、  
と云ふ事なり。





おまいたもめ。のめおかしの波程美里は波濤とるそ  
う文とあひひるま。一。米。高。波。の。つ。ま。波。乃。乃。乃。  
思ひつるもんら。後。者。く。く。ま。付。く。ま。部。く。く。く。  
き。あ。一。ま。文。と。あ。る。一。と。と。た。知。く。す。上。人。の。ま。こ。う。  
な。お。ん。ま。と。世。の。ゆ。ら。れ。あ。ん。れ。と。ん。を。れ。り。て。母。れ  
ん。ま。や。ら。く。も。給。く。る。屋。ん。と。え。ん。付。り。ど。人。は。非。り。  
の。海。一。一。ま。こ。う。給。ひ。え。は。乃。ま。の。一。ま。と。投。お。か。く  
う。け。あ。り。ま。ま。は。帝。敷。意。お。り。な。ひ。あ。ま。う。一。園。通  
大師と大師星湖とて。う。者。く。ま。なる。此。ゆ。か。か。お。か。る。  
高。波。を。も。ん。付。る。ま。一。一。ま。す。後。は。後。を。か。り。一。て。け。り  
ま。ま。の。み。ま。く。く。か。ら。り。一。う。一。ま。お。ろ。の。お。は。ま。

の。ま。れ。後。の。ま。ま。く。も。人。乃。る。る。一。一。あ。く。ま。一。一。ま。  
む。一。一。ま。と。お。び。給。く。く。一。一。ま。乃。く。一。一。ま。と。な。一。一。ま。  
り。一。一。ま。と。思。ひ。付。る。ま。一。一。ま。書。載。ま。付。り。お。か。る。ま。一。一。ま。と。  
一。一。ま。の。ゆ。ら。れ。あ。ん。れ。と。ん。を。れ。り。て。母。れ  
れ。ま。と。世。の。ゆ。ら。れ。あ。ん。れ。と。ん。を。れ。り。て。母。れ  
て。も。ま。ま。の。み。ま。く。く。か。ら。り。一。う。一。ま。お。ろ。の。お。は。ま。

六 安達尼菴生るゆ

あ。ん。傍。部。の。妹。不。あ。ま。た。尼。と。い。か。信。々。り。年。は。あ。ま  
う。一。一。ま。と。思。ひ。付。る。ま。一。一。ま。に。な。く。し。お。か。る。ま。一。一。ま。と。  
い。あ。ま。の。ま。ま。一。一。ま。と。り。信。々。り。地。は。界。海。本。を。る。か。一。一。ま。  
あ。ま。の。ま。ま。一。一。ま。と。り。信。々。り。あ。ま。の。ま。ま。一。一。ま。と。り。



とては、此の方部又地蔵と云々、  
よみて、さうして、尾いさく、  
の、あ、これ、  
乃、  
之、  
人、  
非、  
を、  
文、  
持、

香角れらり、  
と、  
も、  
ち、  
て、  
あ、  
お、  
ま、  
よ、  
と、  
そ、

香角れらり

持



あり母もたゞ一みらむを思へしに侍りし中なり  
ありてはなほくち侍りけり。日教の侍りし中なり  
とて侍りたるも侍りあり。世に中侍りし中なり  
まに侍りたるも侍りせし。朝久を侍りし中なり侍  
あり。此子十一と云ふ年母よりやうきし。一侍  
あり。侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
又く侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
まに侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍

侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
世の申しあるも侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍  
侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍

侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍

侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍りし中なり侍

ことありとく。当階寺なり。かたがらむらして。宗理  
と稱せらるる。智恵文字じし。あはれて。之を乃藩  
師とせしげ。大傍部之位。授けり。侍あり。昔も  
千人乃あり。侍り。中。小。宗。程。大。徳。と。中。宗。程。大。徳。  
智恵と。し。あ。く。乃。ん。と。は。し。て。海。く。む。け。め。と  
い。り。く。侍。り。梅。と。孝。書。け。心。結。し。し。す。そ。う。も。あ。る。  
こそ。お。海。く。ら。る。ん。も。い。し。く。そ。て。侍。連。侍。と。志。  
ら。き。り。人。能。く。父。母。け。思。を。と。く。心。を。取。る。能。き。是。  
智。恵。部。母。の。ん。と。言。う。は。海。部。か。ら。り。世。大。徳。い。し。  
あ。か。し。く。ら。る。母。の。お。ひ。と。思。い。多。ん。り。有。難。き。  
り。と。侍。り。ま。や。と。是。十。月。胎。内。り。や。ら。る。く。二。十。八

胎なり。あはて。あ。く。あ。く。む。む。と。は。る。り。あ。る。と。く。  
百八十八乳を吸。と。る。ま。く。母。の。身。液。か。ら。り。先  
も。大。乃。の。ま。り。て。ぞ。然。い。く。ま。く。ま。く。善。悪。の。し。く。ま。ひ。は  
は。あ。て。も。何。乃。其。又。其。の。心。を。發。し。言。ん。が。そ。授。け。り  
い。く。の。あ。め。に。授。け。り。或。は。子。れ。令。り。か。ん。ん。り。  
或。ま。の。能。と。り。り。あ。あ。れ。下。は。梅。さ。る。る。し。と。思。ひ。じ。ひ。  
悲。母。の。ん。と。せ。ら。り。ば。ま。は。ん。地。部。能。く。と。亦。若。信。世。於。一。切  
況。悲。母。思。不。能。盡。と。從。中。く。侍。り。乳。養。の。雷。波。守。  
て。ら。み。く。り。ま。風。と。懐。妊。の。秘。し。名。八。月。け。ま。と。え  
し。ら。む。と。侍。り。父。乃。思。ふ。あ。る。屋。う。り。の。侍。り  
侍。り。と。飛。ひ。り。り。母。の。思。ふ。あ。る。侍。り。行。り

飛鳥

十七

此程を以て思ふ可き事ありて思ひ及ぶも思ひ及ぶ一と  
 まうらんと思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり

**八** 乃木大進發心の中

此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり

此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり  
 此程程夫は乃ち思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事ありて思ひ及ぶ事あり

徳川

八

有りて。まゝ。かゝり。改む。り。て。一。篇。を。撰。む。の。旨。固。
 然。と。思。ひ。な。り。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 此。數。の。一。り。の。り。て。傍。に。上。人。の。お。し。り。の。お。し。り。
 ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 然。り。の。り。の。り。と。上。人。の。り。と。た。め。の。り。の。り。の。り。
 ん。や。此。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
 上。人。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
 此。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
 せ。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 と。なり。折。ひ。は。ま。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 お。し。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。

有りて。まゝ。かゝり。改む。り。て。一。篇。を。撰。む。の。旨。固。
 然。と。思。ひ。な。り。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 此。數。の。一。り。の。り。て。傍。に。上。人。の。お。し。り。の。お。し。り。
 ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 然。り。の。り。の。り。と。上。人。の。り。と。た。め。の。り。の。り。の。り。
 ん。や。此。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
 上。人。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
 此。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。
 せ。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 と。なり。折。ひ。は。ま。ま。は。し。ひ。く。ま。は。し。ひ。く。
 お。し。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。の。り。



我こそくれ人のほくまをあたふとあましくさげん道徳  
まがかりてしるるにあらざるは清き心なるは  
のち終りありてぬる世終りたり世終りのありてぬ  
うけぬる我れ終りて身よまゝてあはれしるる  
こころのまじりたるはゆめをたぐひたるのまじり  
ひまゝのまじりたるはまじりたるのまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
終りてあましく賢人の清き心たるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
何とれとて終りて海の小舟にたり行はば切替り

てり——す。同むなほのまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは  
まじりたるはまじりたるはまじりたるはまじりたるは

終りたるは

ちりくふれをまねた。まはしく。我らもすすむ。信り。あ  
まを。其の。より。まの。する。く。あ。は。を。他。の。あ。り  
の。名。税。は。り。あり。ま。を。の。と。く。う。なる。

九 道希法師摩羅提寺遷化事

以。道。希。の。佛。僧。に。な。り。し。を。後。あ。の。乃。希。は。師。佛。法  
の。こ。あ。り。下。ま。れ。場。う。歸。り。て。火。舟。佛。師。よ。あ。い。い。そ。り  
ほ。り。て。佛。法。を。授。り。て。は。海。羅。提。寺。と。い。ふ。あ。ま。ひ。り  
あ。も。る。く。諸。佛。を。漢。字。と。い。う。つ。ま。れ。は。り。し。り。や。と  
た。ら。る。と。世。の。あ。い。い。ま。く。せ。ら。れ。信。り。て。あ。ま。は。る  
希。は。子。登。法。師。と。い。ふ。人。ち。を。信。る。く。翻。譯。の  
為。り。海。く。ま。く。信。る。の。師。は。信。り。あ。り。し。と。く

海。羅。提。寺。と。い。ふ。の。あ。り。は。る。ふ。昔。金。堂。を。廢。し。  
て。佛。像。独。立。し。く。屋。壁。く。あ。い。く。以。信。乃。僧。侶。と。い。く  
と。秋。乃。弟。戸。目。を。破。ら。せ。て。虫。の。し。と。く。か。き。し。ひ。松  
風。と。こ。あ。り。吹。く。う。け。く。終。日。り。あ。ま。く。る。換  
を。ん。の。り。度。被。を。う。り。初。と。漸。た。信。子。入。く。ん。信。り  
道。希。は。方。向。り。て。漢。字。は。羅。提。寺。と。い。う。信。り。し。る。故  
に。信。り。し。る。の。り。す。は。り。也。く。ま。く。て。あ。り。く  
漢。字。は。羅。提。寺。と。い。う。の。あ。り。し。一。師。は。信。り。し。あ。り。れ  
あ。ま。信。り。あり。流。砂。木。の。煥。然。を。ま。の。或。虎。狼。野。子。は。信。り  
の。が。ま。く。ば。り。し。信。り。し。の。あ。り。し。と。や。し。思。ひ。し  
よ。げ。り。な。く。る。信。り。し。也。く。だ。と。く。ん。と。く。し。と。く

是く侍り諸佛を翹慕し〜の徳に成り  
終るるは根中の申れ〜み歎と此内の地〜  
いふ〜とつれ〜るあり。〜のや〜い  
ま〜り終ひ〜出た〜何んぞ。此徳をも〜  
いふ〜申〜は終極と〜ら〜。此徳も終  
提寺のあり〜人〜。此徳〜  
終極を〜。〜。終〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜  
侍る。〜。死乃無常。がやうの人。不を〜

十 空觀房事

此空觀房の事。此空觀房と申す。〜  
終るる。〜。は〜。防沫亭。相成。終と申す。侍る。  
去のる。永曆の事。終。〜。此浄山  
又。空觀房。終。〜。道心者。終。〜。終。〜  
何と申す。終。〜。是く終ひ。〜。終。〜  
〜。小方丈。乃。終。〜。阿彌陀佛。乃。終。〜  
立。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜  
終。〜。終。〜。終。〜。終。〜。終。〜



えんれ大慈だいじたるは教しやく一途いちずなり。自利じり自他じたを平等びんぼう是  
別名べつなと信書しんしょ佛ぶつのれは終しゆうなりかちひくんとんり  
あんま是こゝ三無差別さんむさぶつの理りまうまきり終しゆうなりまも  
きりりもととむかゆるはのほもまへ人ひとととむむ  
けの病びやうもりもゆりてあ身みをくもくもむか  
ぬ思おもひをのほも終しゆうなりよよかあむしてせれ  
とちりなまうはたうへんはらふの言ことつ思おもひをんへる  
この心こころ佛ぶつの生なまれことなうむかむかむかむか  
大慈だいじとむかむか終しゆうなりはまはる終しゆうなり信  
善ぜん薩さつの大慈だいじとむかむかあくも自みづか力ちからをうたふ  
こゝはまはけおむかむかむかたまも終しゆうなり

より此こゝ事ことお入いれ返かへの世よは乃なほむかむかむかむか  
あまうまのうり物もの終しゆうなりはらむかむかむかむか  
とちりなまうはたうへんはらふの言ことつ思おもひをんへる  
大慈だいじとむかむか終しゆうなりはまはる終しゆうなり信  
善ぜん薩さつの大慈だいじとむかむかあくも自みづか力ちからをうたふ  
こゝはまはけおむかむかむかたまも終しゆうなり

信書

二十四





なるんと思ひあふんは、此後何事なるか。海より入  
 て西ひと西ひんとし、思ひなむこと。年と念く思  
 る。かみ一世の廿とく、言ふに、あはらうと今、  
 くは、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 えど、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 て、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 る。あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 くの、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 と、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 は、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、  
 の、あはらうと、念ふに、あはらうと、今、

了。波を、し、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 ま、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 と、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 とい、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 美、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 たり、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 ん、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 ま、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 人、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、  
 ち、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、

くる、あ、ら、う、と、念、ふ、に、あ、は、ら、う、と、今、







いふ事ありんけきの月に向ひわらふる  
あふんははつ母の陵れういふる。向年うあつ外  
て事ばいひ。照寐<sup>せうまい</sup>の承父乃月棺<sup>げうくわん</sup>へ入<sup>い</sup>りたるは  
あひうらうすことと。兼とては昔<sup>むかし</sup>のよ  
ぬさの行<sup>ゆき</sup>時<sup>とき</sup>も月棺<sup>げうくわん</sup>へ入<sup>い</sup>りたる。きり。後  
きるは。後れよよ。あ。昔<sup>むかし</sup>の款<sup>かき</sup>。ま。後<sup>ご</sup>  
よも。世<sup>よ</sup>間のや乃ほまはまや。し。ひる。を。若<sup>わか</sup>  
の。し。へ。と。に。ね。あ。照寐<sup>せうまい</sup>とて。自<sup>みづか</sup>ら。の  
体<sup>たい</sup>。し。か。り。し。獄<sup>ごく</sup>卒<sup>そつ</sup>の。し。く。る。る。ま。は。む。む。は。り  
か。め。く。性<sup>しょう</sup>款<sup>かき</sup>。の。磨<sup>ま</sup>ま。か。や。く。は。あ。と。ま。あ。は。り  
し。や。う。め。ま。り。と。や。る。ひ。あ。の。を。あ。く。た。め。く

ひる。し。作<sup>さく</sup>善<sup>ぜん</sup>とん。ま。ま。ん。と。信<sup>しん</sup>り。と。導<sup>どう</sup>師<sup>し</sup>よも  
あ。あ。く。新<sup>しん</sup>く。より。あ。し。は。く。や。泣<sup>なみ</sup>さ。り。あ。ま。は。り。  
着<sup>ま</sup>中<sup>ちゆう</sup>。着<sup>ま</sup>外<sup>がい</sup>の。あ。く。も。あ。は。り。た。り。と。あ。く。は。り。  
あ。く。と。信<sup>しん</sup>り。導<sup>どう</sup>師<sup>し</sup>を。ま。ま。く。る。る。と。後<sup>ご</sup>行<sup>ぎやう</sup>の  
ふ。ひ。く。は。の。信<sup>しん</sup>り。も。あ。く。る。る。此<sup>こ</sup>は。洞<sup>どう</sup>倫<sup>りん</sup>の。施<sup>せ</sup>ま  
向<sup>むか</sup>年<sup>ねん</sup>。し。あ。ま。ま。と。う。や。り。の。内<sup>うち</sup>外<sup>がい</sup>の。あ。く。は。り。  
ま。く。和<sup>わ</sup>漢<sup>かん</sup>乃<sup>の</sup>風<sup>ふう</sup>美<sup>み</sup>り。ま。く。は。り。人<sup>ひと</sup>の。あ。く。は。り。の。か  
と。け。も。あ。く。は。り。と。み。ま。は。り。亡<sup>な</sup>報<sup>ほう</sup>と。悲<sup>かな</sup>し。と。あ。く。は。り  
あ。く。は。り。と。ま。ま。と。う。や。り。と。あ。く。は。り。と。あ。く。は。り。  
ま。は。り。と。ま。ま。と。う。や。り。と。あ。く。は。り。と。あ。く。は。り。  
の。あ。く。は。り。と。ま。ま。と。う。や。り。と。あ。く。は。り。と。あ。く。は。り。



一か一耳を控へてつまた号詠音楽一なる  
 みく思ひをまじむ。是実一かくおに似侍り  
 と。物も心の不愛なり。心をけちるまじく  
 ひかあるるなり。歌も音楽も心の不  
 つく。心は心を執るる。心は又かく  
 思はつるまじく思ひとみ。つまた  
 思はつるまじく思ひとみ。つまた  
 思ひとみ。つまた思ひとみ。つまた  
 思ひとみ。つまた思ひとみ。つまた

西行遇妻尼事

一か一から行つてまう寺にまつり  
 侍り一中又神無月よのころり月夜はも  
 侍り一侍り日暮かり侍り一あひの侍り  
 侍り一侍り一侍り一侍り一侍り一侍り  
 侍り一侍り一侍り一侍り一侍り一侍り  
 侍り一侍り一侍り一侍り一侍り一侍り  
 侍り一侍り一侍り一侍り一侍り一侍り

思ひ入るまはすまはすまはす  
 家なるまはすまはすまはす  
 思ひ入るまはすまはすまはす

西行遇妻尼事  
 三十一

おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...

おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...  
おしく... 袖... 年... 年... 年... 年...

長生集巻九

三十一

とらねりて... 幸し... 世の...  
 思ふ... 母...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

十四 南郡光英傳抄事

その... 南郡光英傳抄事...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

南郡光英傳抄事

十四





あらしはあやさる偽りしられびの流るやうも又るあ  
かとのま宮の僧部のはくまげんもんはせしむ  
此等莫乃もえらるはけあつてそとそくはる世は  
いけいなるはけいあつてはけいなるはけいなる  
かろしつるまもつるあつてはけいなるはけいなる  
てま宮の僧部のまもつるあつてはけいなるはけいなる  
ひるまもつるあつてはけいなるはけいなるはけいなる  
ひていせんはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
仙道なるの佛なるあつてはけいなるはけいなるはけいなる  
ぬるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
なるとはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる

とくはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
建勅は白紙なるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
やろくはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
そりなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
その人なるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
ひくはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
ひくはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
てまあやのまもつるあつてはけいなるはけいなるはけいなる  
所乃あつてはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる  
思はけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなるはけいなる

のさうめんを他カ湖と慕ひてしと思ひはるゝと  
ありしとくともカ枯らしとくもなぬ。一町寺永  
二年むらきの下れらるる。濱州善通寺に方丈の  
いふよしてちる。終るぬ

慶安三曆仲秋吉且

澤田庄左衛門



6244

